

震災直後の緊急物資輸送機能の確保

— 耐震強化岸壁の整備 —

耐震強化岸壁(常陸那珂港区中央ふ頭地区水深7.5m)

- 東日本大震災の際には被害が少なく、東北地方を含む被災した港湾の中で最も早い震災4日後から利用可能となった



耐震化されていない岸壁の被災状況 (常陸那珂港区)

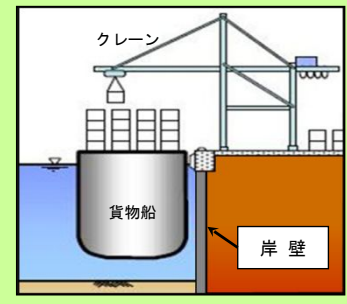
※撮影日時 H23.05.20

- 大規模地震が発生した場合、被災地へ水や食糧等の物資を大量に輸送する必要があり、**港湾は海上からの緊急物資を輸送する中継拠点としての役割**を担っています。
- このため、県内の港湾においては、地震に強い耐震強化岸壁を整備することにより、震災後、早期に海上からの緊急物資を受け入れることが可能となります。

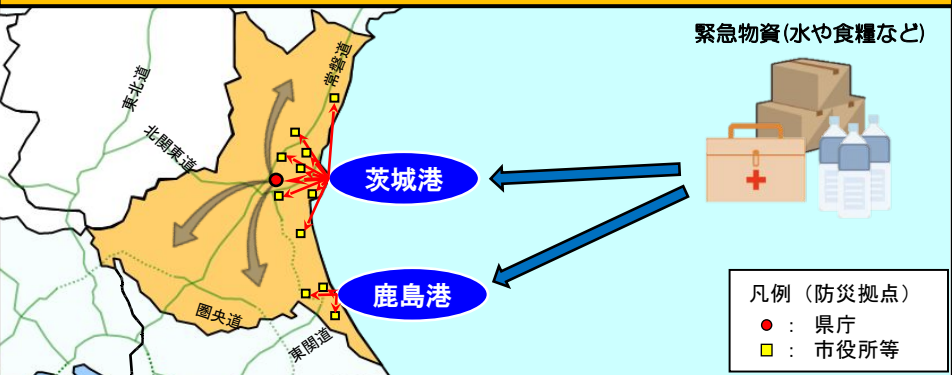
※岸壁とは、船を接岸し貨物の積み下ろしに利用する施設です。
耐震強化岸壁は、通常の岸壁よりも大きな地震に耐えるよう耐震性能を強化した岸壁です。

- 県内の耐震強化岸壁の数
1カ所 → 3カ所
(震災前) (現在)

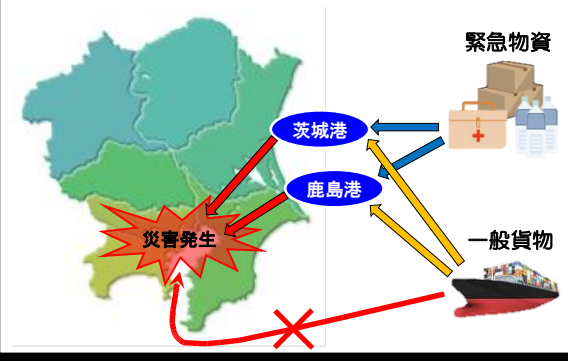
※さらに、平成27年度末の完成を目指し、茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区に新たな耐震強化岸壁を建設しています。



茨城港・鹿島港による緊急物資輸送イメージ



首都圏被災時の緊急物資等の輸送



首都直下地震などにより、京浜港が被災した場合、茨城港や鹿島港から高速道路を経由して緊急物資を輸送することが可能であるほか、**首都圏のバックアップ機能**としての役割も期待されています。